積丹アクションのアイデア (素案)

北海道では、日本海沿岸漁業が磯焼け等の影響により水産資源が厳しく、漁業経営が厳しい他、水産依存度の高い地域にあっては地域のサステナビリティにも影響を及ぼしかねない深刻な状況にある。積丹地域は北海道の日本海沿岸で抱える共通の課題を有している他、人口集積・大消費地の札幌圏に近接しているという強みも有している。

このため、積丹地域(積丹町)をモデルとして、日本海漁業地域のサステナビリティ問題を先導的・先駆的にブレークスルーするための、また積丹地域を活性化させるための、地域主体で実行可能な積丹アクションのアイデア(素案)を検討した。

(1)弱みを強みに変えていく取組

【アイデア1】発想転換で弱みを強みに(低・未利用魚の活用)

- ▶ 積丹地域で水揚げされる魚種の特徴として、少量かつ多様であることから、ロットが 確保できず流通しない、あるいは安く買い叩かれるような、低・未利用魚種が一定程 度存在。低・未利用魚種(メジャー魚種の規格外品も含む)を活用した隙間的な部分 をメインに取り組めないか。
- ▶ 干物にして地元の直売所等で販売(ネット販売も含む)、地元食堂での提供、漁師だけが知るレシピを付して鮮魚で販売することなどを想定(コンセプトは漁師めしを食らう)。ふるさと納税の御礼の商品として活用するのもアリ。
- ▶ 安定的な水揚げが期待されないため、何を購入できるのか、食べられるのか不透明な要素があるが、不確定要素という弱みを逆手に取って「訳あり品」としてとにかく安く提供する仕組みを設ける。

【アイデア2】弱みを埋める(冬期来訪者の創出)

- ▶ 積丹地域は冬期の来訪者が極端に落ち込む。冬期間は核となる資源が無いのが要因。
- ▶ 年間を通じた観光客相手の商売が成立せず、冬季は営業を休止するなど雇用にも影響 しており、一部の漁業者(主に磯根)、飲食店従業員等は出稼ぎに出ている状況。
- ▶ 既に集客力の高い春夏期に集中する各種イベントを秋冬期に一部シフトするなど、 秋冬期来訪者を創出するための戦略に変えてはどうか。
- ▶ 秋冬期の来訪者に対して、どのような積丹水産物で訴求するか。例えば、漁船まる ごと鍋(1隻まるごと参加者でタラ?等の漁獲物を山分けして鍋で食べる)とか。
- ▶ 冬期に海外からの来訪者が集まるニセコ・倶知安圏から積丹地域に誘導する何らかの 仕掛け・アイデアが無いか。

(2)強みをさらに強くする取組

【アイデア3】強みをうまく活用(ナマコの6次的利用)

- ▶ 後志管内のナマコはイボ立ちが良いと高く評価され、全道平均を2割程度上回る単価で取引されているが、積丹地域のナマコは積丹地域外で付加価値が付けられて輸出されている現状。積丹地域の水産加工場で加工できれば相当の売上げ増が見込める可能性。
- ▶ 日本人はあまりナマコを食べる文化が無いので大半が輸出されているが、美味しい調理・加工手法を開発し、食文化を根付かせることが出来れば、積丹ナマコをブランドとして確立できるかも。

(3)新たに強みを作る取組

【アイデア4】強みをさらに強く(ウニの通年出荷)

- → 一般的に積丹漁業のイメージは、夏場のウニ。札幌圏からのウニ丼の集客力は高いが、 ウニは漁期が限定(6-8月)。最近は磯焼けの進行もあって、生産量は減少傾向。
- ▶ 夏季以外にも出荷できればウニ目当ての観光客も見込め、年末年始の単価が高い時期 に出荷できれば、漁業収入は格段に増加する。(夏の天然ウニブランドを汚さないよ う、冬ウニに名称を付けるなどの差別化も必要。)
- ▶ 現在休止中のウニ種苗センターの活用によるウニの蓄養。磯焼け活動で駆除したウニを水槽に入れて給餌し、実入りを良くしてから出荷。
- ▶ 本年度より、小樽開建において「自然エネルギーを活用した蓄養技術の開発」を開始。 地域と連携し、技術的課題、運営方法等、持続可能で効果的な取組方法を検討してい く必要あり。

【アイデア5】全道的な漁獲量低迷を強みに(ホッケ畜養の試行)

- ▶ 近年、ホッケの漁獲も低迷、魚価が高騰。ホッケのブランドは他地域が先行している ものの、北海道全体がホッケブランドになっていると捉えることもできる。
- ▶ ホッケの魚価高騰期を狙い、漁港ストック(港内静穏水域)を有効活用し、港内でホッケ畜養をトライアル(ホッケ畜養自体は他地域で実施例あり)。
- ▶ 将来的な畜養ホッケのブランド化、ホッケの干物以外への活用(ホッケの刺身など) などもパッケージで取り組むことも一案。

以上、現時点のアイデア(素案)。アイデアを実行していくためには、アイデア内容に応じて、漁業関係者、商工関係者、観光関係者など積丹地域の方々が主体的に取り組む体制、効果的に行政がバックアップしたり、協働で取り組むこと、またNPO等地域外の視点を活用していくこと等が必要。